

# リーディングDXスクール事業【実践事例】

京丹後市立久美浜中学校

## 【取組内容①】「付箋アプリやシンキングツール等を活用した協同作業や回答共有など、普段使いの実践」

### ◆概要◆

これまで、黒板や班ごとのホワイトボードなどを駆使して取り組んできた「共有」のプロセス。場合によってはワークシートを使用し、教師がとりまとめて次時の授業に共有することもありました。ICTを活用することにより即時に意見や考えが共有され、再び個の思考へ転じ「深い学び」へと導くための効果的ツールとして、各教科で大変効果的です。

### ◆実践事例◆

シンキングツールやデジタルホワイトボードソフト、アンケート機能を用いて、即時に集団に対してフィードバックし、次の授業展開へ。これまで付箋や模造紙、班ごとのホワイトボードを用いることなく共有できるとともに、自分の考えや思いを抵抗なく伝えるメリットもあります。

### ◆生徒の変容と成果◆

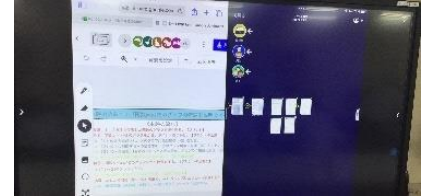
一部の生徒の発言のみで授業が進むこともなく、抵抗感を払拭できた生徒も数多くいます。これらを授業の特別な山場で使用するのではなく、「**普段使い**」として常用することができれば、実際の発言や発表と組み合わせ、多面的な授業展開が可能となります。



シンキングツールを用いた深い学び(国語)



↑ ↓ 複数画面・アプリの併用(演習とヒントの提示)



↑ ↓ 教科書や資料とアプリの併用



浮力の実験で気づいたこと		デジタルホワイトボードソフトの活用		
不思議に思ったこと		もっと調べたいこと		
深さが変わらない	軽くなった力が同じ	カヌーが沈まない理由は何?	浮力の大きさは何に関係するか	鉄を浮かせるにはどうしたらよいか
				そもそも浮かって何?

**本時のあて**: 『相似の関係を使って線分の長さの求め方を、じっくり考えることができる。』

《 本時の流れ 》

準備①: Teams にログインし、「RS 3の1」の「数字」チャンネルに入る。QRコードからでもOK

準備②: 投稿内にあるリンクから、Teams にアクセスし、(本時の流れ)を2画面表示する。

導入①(導入): 授業プリントの1の読取文を読み、解けた人から1と2の解答を4に投稿する。

導入②(グループ): 教科書を見て、授業プリントの「三角形と比」「三角形と比の定理の逆」のポイントをうめる。

授業のポイントチェック前: 授業プリントの ①～③、に取り組み、早く終わった人は ④ にチャレンジ!

演習: リポート学習 78 79 にチャレンジ (ラスト10分になったら...) 資料箱の

まとめ: (確認テストが終わって〇付けた人から...)



←デジタルホワイトボードソフトは共有作業だけではなく、めあてを提示し、複数画面で常時提示することに活用も可能

グラフ化に加えて  
解き方の重要ポイントを文字化して共有

つまづきや解決方法を「解放」しさらなる「協働的学び」へ発展

「できないのは自分だけじゃない!」みんなの苦手度を共有し、友だちのアドバイスを受けて自分に合った問題に挑戦!